

西北地区統合校開設準備委員会報告書

令和2年1月23日

西北地区統合校開設準備委員会

令和2年1月23日

青森県教育委員会
教育長 和嶋 延寿 殿

西北地区統合校開設準備委員会
委員長 佐井 憲男

西北地区統合校開設準備委員会の協議内容について（報告）

本開設準備委員会で、これまで協議した内容を次のように取りまとめましたので報告します。

1 西北地区統合校開設準備委員会の設置趣旨及び協議について

西北地区統合校開設準備委員会（以下「開設準備委員会」という。）は、平成29年7月に策定した青森県立高等学校教育改革推進計画第1期実施計画に基づき、令和3年度に県立金木高等学校、県立板柳高等学校、県立鶴田高等学校及び県立五所川原工業高等学校の統合による西北地区統合校の開設に必要な準備を進めるため、4校の校長、学校関係団体の代表者等を委員として設置されたものです。

以下は、開設準備委員会で協議を行った内容ですので、県教育委員会におかれては、今後この報告書を踏まえ、西北地区統合校の開設に向けた検討を行っていただくことを望みます。

2 開設準備委員会における協議事項及び協議結果について

協議事項	協議結果
校名	<div data-bbox="395 840 1444 1025" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"> <small>ごしょがわらみなみ</small> <small>つがるちゅうおう</small> <small>ごしょがわらこうか</small> 「五所川原南高等学校」、「津軽中央高等学校」、「五所川原工科高等学校」、「五所川原実業高等学校」及び「五所川原志学館高等学校」の5案を開設準備委員会の校名案とする。 </p> </div> <p>(1) <small>ごしょがわらみなみ</small> 五所川原南高等学校</p> <div data-bbox="432 1120 1444 1574" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>提案理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これまで校名には原則として所在地の地名を冠してきたこと、統合校が五所川原市の南方に位置すること、五所川原市内には五所川原南小学校もあり校名として広く親しまれていることを考え提案した。また、短くてシンプルな校名の方が将来的にも飽きがないと考え「五所川原南高等学校」とした。 ○ 普通科と工業科を含む新設校ということから、今までの「工業」を冠した校名は、違和感を持つ人もいると思われる。校名に関しては、地理的状況から判断すると五所川原の南に位置することから、「五所川原南高等学校」がふさわしいと考える。 </div> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 位置に着目するというのであれば、五所川原市の南にある学校ということで、「五所川原南高等学校」を支持する。 ○ どこに所在するのかということがシンプルに分かりやすい。 ○ 本県の県立学校の校名は高校が立地する場所の地名や方角が付いており、近隣では弘前南高校や青森南高校がある。これらの地域の中学生は、この校名に非常に親しんでいると考えられ、西北地区の中学生にも同様に親しんでもらえると思う。 ○ シンプルに、現在の五所川原工業高校が五所川原市の南の地域にあるということで、「五所川原南高等学校」が良い。住民にとっても分かりやすい。

協議事項	協議結果
	<p data-bbox="400 293 751 338">(2) ^{つがるちゅうおう}津軽中央高等学校</p> <div data-bbox="432 344 1445 506" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p data-bbox="453 360 564 394">提案理由</p> <p data-bbox="453 405 1422 483">○ 津軽地域の複数の市町に所在する高等学校の統合により新設されることを考慮して「津軽中央高等学校」とした。</p> </div> <p data-bbox="400 528 552 562">(主な意見)</p> <ul data-bbox="413 577 1445 1025" style="list-style-type: none"> ○ 統合校には西津軽郡の生徒も入学することを考慮すると、より大きな範囲で考えて、「津軽中央高等学校」が良い。津軽という地名は県外でも知られているので良い。 ○ 津軽という地名は、全国でも知られているので良い。 ○ 青森県、日本、世界を見据えたときには、津軽という地名はブランド化していると思う。このような観点から、津軽地域の中央にある高校ということで、「津軽中央高等学校」が良い。 ○ 津軽というと、弘前市や青森市だけでなく、東津軽郡も全て含まれるため、あまりに広大な感じもするが、様々考えると「津軽中央高等学校」が良い。 <p data-bbox="400 1111 799 1155">(3) ^{ごしょがわらこうが}五所川原工科高等学校</p> <div data-bbox="432 1167 1445 1742" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p data-bbox="453 1182 564 1216">提案理由</p> <p data-bbox="453 1227 1422 1305">○ 統合校は、普通科・機械科・電気科・電子機械科の4学科5学級の構成である。</p> <p data-bbox="477 1312 1422 1435">工業の各学科では、工業の見方・考え方を働かせて、ものづくりを通じて健全で持続的な地域や社会の発展を担う人財の育成に向けた教育活動が継続展開される。</p> <p data-bbox="477 1442 1422 1610">普通科は、文理類型にこだわらない科目履修ができるカリキュラムの編成と工業の各学科との連携によって、「科学」、「技術」、「工学」、「数学」の分野を関連付けながら学べる学科となることが期待できる。</p> <p data-bbox="477 1617 1422 1740">このことから、校名は、統合校の教育活動がイメージされやすいことも考慮して、地名の「五所川原」に「工科」を付した「五所川原工科高等学校」としたい。</p> </div> <p data-bbox="400 1794 552 1827">(主な意見)</p> <ul data-bbox="413 1843 1445 2105" style="list-style-type: none"> ○ 五所川原市内には、五所川原農林高校という学校もある。工業科がある五所川原工業高校に普通科が加わるということで、ふさわしいと考える。 ○ 「工」の字がついていて、5クラスのうち工業科が過半数を占めることが分かりやすい上に、工業科だけではないという印象が少し強いということで、「五所川原工科高等学校」を推薦する。

協議事項	協議結果
	<p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者等にとって、統合校は工業科が中心だということを分かりやすくする必要はある。統合校では、工業のイメージを出す必要がありつつも吸収統合ではないことを考慮すると、「五所川原工科高等学校」が良い。 ○ 今回の統合により、4校が同時に閉校することとなっており、閉校前に統合校が開校することとなっているので、ここは「五所川原工科高等学校」という校名で収めて、五所川原工業高校で培ってきた就職等の進路希望を達成する様々なノウハウを引き継いでいけば良い。 ○ 「工」が入っている「五所川原工科高等学校」を選ばせていただく。 ○ 「工」という字を付すことで、今までの企業等とのつながりを再構築できれば良いという思いから「五所川原工科高等学校」を支持したい。 <p>(4) <small>ごしよがわらじつぎょう</small>五所川原実業高等学校</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>提案理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 五所川原市に設立する統合校ということで、「五所川原」を冠する。工業科と普通科を設置するという意味合いでそれらを併せ持つ「実業」を付す。なお、「実業」には専門学科のみというイメージがあるが、全国的に見れば進学等に力を入れている普通科のある学校もある（早稲田実業高校、鹿児島実業高校等）。また、第1期実施計画の西北地区統合校における教育活動に記されている、「普通科においては、金木高校、板柳高校、鶴田高校における特色ある教育活動を引き継ぎ、国際理解、地域ビジネス、生活産業に関する教育に取り組む」という点からも「実業」はふさわしいと考える。更には「実業」を付すことで、将来的に学科・コースの柔軟な変更も可能となる（例えばビジネス学科・コース、スポーツ学科・コース等）と考える。 </div> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 統合にふさわしい校名は、工業科と普通科を勘案した実業である。また、実業高校は、一般的に部活動にも力を入れているイメージがあり、今後の学科の方向性を見据え、様々な広がりに対応できる校名である。 ○ 県民等への意見募集結果にもあるとおり、将来の学校の方向性に対し、全てにおいて柔軟に対応できる校名だと思う。 ○ 実業が新しい学校のスタートに一番ふさわしい。

協議事項	協議結果
	<p data-bbox="400 286 831 338">(5) ^{ごしよがわらしがくかん}五所川原志学館高等学校</p> <div data-bbox="432 367 1447 741" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p data-bbox="453 383 564 416">提案理由</p> <p data-bbox="453 427 1426 719">○ 今までの校名にとらわれることなく、4校統合をまっさらな気持ちで考えたい。「志学」は論語に出てくる言葉であり、新しい学校に集う生徒が、それぞれに志を立て、自分の目標を目指し、真摯に学びに取り組んでほしいと考えた。「館」を付けたのは、4校が1つの屋根の下に集い、目標に向かって学びに取り組んでほしいと考えたことによる。また、県内には「館」の付く高校がなく、音の響きも新鮮であることから、新設校にふさわしいと考えた。</p> </div> <p data-bbox="400 786 555 819">(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="411 837 1447 1043">○ 子どもたちにとって、「志」や「学ぶ」という文字が校名に付されていると夢があるような感じがするし、地名も入っている。志学館というと私立学校にも同様の校名があるが、五所川原志学館というのは響きが良い。また、校訓等にも引用できるような印象があるため、推薦したい。 <li data-bbox="411 1061 1447 1140">○ 県立高校ではあまり聞かない名前ではあるが、「志」という文字が付されており、選ぶとすれば「五所川原志学館高等学校」としたい。 <li data-bbox="411 1158 1447 1279">○ 子どもたちには様々な将来的な夢や思いがあるだろう。それは工業分野や商業分野であったり、あるいは普通科からは看護、医療、福祉の分野にも広がっていく。生徒それぞれの志があれば良いと思っている。

協議事項	協議結果
<p>目指す 人財像</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>第1期実施計画で掲げる「社会の一員として地域づくりに意欲的に参画する人財」、「多様な価値観や立場を理解し、多くの人々と協働しながら地域を支える人財」、「ビジネスの基礎を身に付け、地域経済の発展に貢献する人財」、「生活の質の向上に関する知識を身に付け、地域の発展に貢献する人財」、「高度な工業技術を身に付け、付加価値の高い創造的な製品を開発するなど地域産業を支える人財」の5点を基本としつつ、今後、委員それぞれの意見を踏まえて検討を進めてもらいたい。</p> </div> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 統合校の普通科においては、統合対象校の各地域の活動を取り入れながら、工業や情報の知識を持った国際的にも活躍できるビジネスマンを輩出してほしい。 ○ 実社会に順応し地域に貢献できる人財を育成することが最も重要である。 ○ 統合校には工業科と普通科が併設されるため、IT技術をベースに全国や世界で活躍する人財とともに、地域を大切に、地域に根ざし起業する人財を育てるような教育も必要である。 ○ 委員の方々からあった意見については既に第1期実施計画に記載されているように思うことから、この基本的な部分を逸脱しないように進められると良い。 ○ 自らのキャリアをデザインできる力の育成や地元へ愛着を持ってもらう教育を実践することで、グローバルに活躍するリーダーを育成してほしい。

協議事項	協議結果
<p>学校像</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>委員それぞれの意見を踏まえて、より魅力ある学校づくりに向けて 検討を進めてもらいたい。</p> </div> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 統合校に設置される普通科の教育活動に、現在、統合対象校の各地域で行われている活動を教育資源として活用してほしい。普通科と工業科が併置されるため、普通科の教育活動に工業科の要素も取り入れていけると良い。 ○ 大学進学等を希望する生徒のための進学指導体制を整備できると良い。 ○ 工業科と普通科が併設されている良さを打ち出すことで保護者や子どもに選ばれる学校になるのではないかと。このため、統合校の目指す学校像や特色は今までにない斬新なものを打ち出すことが必要である。 ○ 統合校の普通科でなければできない新たな取組によって、子どもたちに夢を与えられるようになってほしい。 ○ 国の有識者会議でも、地域の在り方がかなりクローズアップされているため、今後、国の提言等の動向を注視しながら、統合校において、地域との関わりという点でどのようなカラーを出していけるか具体的に検討していかなければいけない。 ○ 地域から学校がなくなることで、地域が衰退することを危惧しているため、統合校では地域活性化や地方創生等の観点も取り入れて取り組めると良い。 ○ いかに普通科と工業科を融合させるかという点や、中学生にとって統合校に入学して良かったと思える学校づくりに知恵を絞っていかなければいけない。 ○ 工業科と普通科がバラバラではなく、一つの学校の職員として協力し合っていく必要があり、統合校のスタートが重要である。 ○ 資格取得や進学指導など、2つの学科の良いところをお互いに吸収して特徴ある工業科及び普通科にしてほしい。 ○ 地域活動に参画させることによって、地元に対する理解を深め、生徒が地元に着住するように図ってほしい。 ○ 普通科の生徒が疎外感を持つことのないように配慮した施設整備をお願いしたい。

協議事項	協議結果
校訓及び 学校標語	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>統合対象校の4校のものを参考にしながら、新たに制定する方向で検討を進めてもらいたい。</p> </div> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 五所川原工業高校には校訓がないため、新しいものを制定して良い。その際の決め方も様々あると思うが、例えば、「誠実」という言葉は、五所川原工業高校の校歌に「まこと」で入っており、他の3校の校訓となっている。このような擦り合わせをすれば決められる。 ○ 校訓については、五所川原工業高校も統合になるため、共通しているものは生かしつつ、新たに制定すれば良い ○ 校訓はいらないと思う。学校標語のようなものがあれば良いのではないか。五所川原工業高校を校内見学した際、目に入ったのが「全校一体一大家族」という学校標語であった。企業等でも様々な倫理や道徳を掲げているが、様々なフォーラムに出席すると、利他の心、思いやり、人のために尽くすといったものをテーマにしているものが非常に多い。このようなことは、統合校においても一番大事なことである。 ○ 校訓をワーキンググループや開設準備室で検討するのであれば、学校標語も併せて検討する方向で進めた方が良い。

協議事項	協議結果
校章	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>「新たに校章を制定すること」または、「五所川原工業高校の校章を引き継ぐこと」の2案が考えられる。 なお、新たに校章を制定する場合は、公募またはデザイナー等への委託により制定する方向で検討を進めてもらいたい。</p> </div> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 校章だけは五所川原工業高校のものから変えないでいただきたい。例えば令和3年度のとき、五所川原工業高校の2年生、3年生が在籍しており、その生徒たちは現在の校章を付けて様々な場面に出ていく。このような中で、校章が2つあるのは違和感がある。五所川原工業高校の2年生、3年生が在籍している間の校章の取扱い等々についても考えていただきたい。 ○ 校章は五所川原工業高校のものを引き継いでも良い。校章に関しては、五所川原工業高校が大事にしてきた理念があるということが分かった。校章はこのままで良いと思っているが、統合に際しての理念を付け加えていただければありがたい。

(主な意見)

- 五所川原工業高校の校章は、球の上に「工」の字を置き、その上に高校の「高」を組み合わせたものである。ドイツのフレーベルという教育学者が「人間の教育」という著書において、球体の法則について、多様性を持った者同士であっても、最終的には一つにまとまっていくと主張している。このような意味で統合対象校の4校の思いが一つにまとまり、既存の校章にある丸みを帯びた球として引き継いでいくという方向でも良いのではないか。そして、工業を意味する「工」の字は、解釈を別にして学問と捉え、普通科で学ぶ学問、工業科で学ぶ技術、これらの厳しさや鋭さと解釈をすれば、これはまさしく統合校の象徴として十分ふさわしく、入学してくる生徒や学校関係者が誇れる校章である。
- 五所川原工業高校の校章は、どう見ても工業の「工」に見えるが、委員会で絞り込んだ校名案候補の5つの中から、例えば「五所川原工科高等学校」が選ばれたとすれば校章はこのままで良い。一方で、別の校名になった場合、校名に「工」は入らないので、一新した方が良い。
- 統合対象校4校が断腸の思いで閉校するものであり、どの学校にも歴史があり校章がある。統合校のスタートをスムーズにするには、校章も変えるべきである。
- 新たに制定すべきである。制定に当たっては、ただ単にデザイナーに任せるのではなく、統合対象校4校に共通する岩木山と岩木川をデザインに加えながら制定すれば良いと思っていた。今回、五所川原工業高校の校章制定に至った理念等も伺ったため、岩木山、岩木川や、球体という理念を取り入れながら、新しく制定してはどうか。
- 校章のデザインに取り入れてほしい観点や視点を示すことで、委員の意見が活かされると思う。ただし、新しく制定するのであれば、子どもたち自身が良いと思えるような、校章、校歌、制服であってほしい。
- 4校統合であり、校歌、制服と併せて、当然校章も変えるべきである。新しい学校になるため、校名だけでなく校章も変わっていくのが当然ではないか。
- 校歌、制服、校章については、新設校だから新たに制定するのが一番良いのではないか。既存の校章を使うという意見を尊重しつつも、統合校であるから新たな校章を望みたい。
- 統合校の生徒の校章は新しいもの、五所川原工業高校の2年生、3年生は既存のものとしても、それほど違和感はないと思う。校章については、各校の思いを汲み取れるようなデザインをデザイナーに委託した方が良い。校章だけは残し、それ以外は変えるというのは、逆に不自然である。統合校では工業科の学級数が多いことを考慮しながら新たなデザインで校章を制定すれば良い。
- 5つの校名案候補があるが、その校名にふさわしい校章にすべきと考える。

協議事項	協議結果
校歌	<div style="border: 3px double black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">新たな校歌を制定する方向で検討を進めてもらいたい。なお、制定方法については、公募または学校関係者により制作する方向で検討を進めてもらいたい。</p> </div> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 校歌を変えた方が良い。式典等の行事を考えると、校章よりも校歌が一番影響あると思うが、統合してから数年間は行事によって使い分けをし、統合から2、3年経過すれば不自然さは解消される。 ○ 校歌については、校名が変わるのであれば変わって当然だと思う。 ○ 4校の高校を1つに統合するためには、やはり校章や校歌、制服は新しくせざるを得ない。 ○ 校歌や制服は、既存のものではなく全く新しい方向で考え、新たなスタートができれば良い。

協議事項	協議結果
制服	<div style="border: 3px double black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">これからの時代に合わせた機能的で使いやすい新たな制服を制定する方向で検討を進めてもらいたい。</p> </div> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 制服は変えた方が良い。中学校でも制服を変更した場合、1年生は新しい制服、2、3年生は既存の制服を着用することはある。 ○ 統合校の新入生は、制服等を一新することで気持ちを一新し、自分たちが歴史や伝統を築いていくという気概を持って教育活動に取り組んでもらい、そして、同時に在籍する先輩たちは五所川原工業高校の生徒として、統合校の生徒と接して切磋琢磨していくことが望まれる。 ○ 制服は五所川原工業高校のものを引き継いでも良い。経済的に困っている保護者の方もいる中で、制服を一新してしまうと、多くの家庭では制服のスペアも用意したいと思うが、その際に兄弟や卒業生から譲り受けるということができなくなる。 ○ L G B T (性的少数者) の生徒等への対応を考慮した機能的な制服を検討する必要がある。男子用、女子用の制服といった固定した考え方ではなく柔軟性を持って対応できるよう制服の機能を検討していくことも必要である。

協議事項	協議結果
<p>特色ある教育活動</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>4校がこれまで行ってきた特色ある教育活動を引き継ぎながら、より充実した教育活動を展開できるよう、委員それぞれの意見を総合的に勘案しながら検討を進めてもらいたい。</p> </div> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 金木高校では、総合的な探究の時間において、地元NPO法人等と連携し「郷土を知り、深め、広める活動」を行っており、統合校に取り入れることも考えられる。また、地域に貢献するボランティア活動を通して、地域を知り、起業する力を身に付けさせたいと考え取り組んでいる。このような活動を引き継げると良い。 ○ 板柳高校では、小・中学校との交流活動を行っており、小学生のキャリア教育や異校種の交流をしている。新設校として統合校が開校することとなるが、小・中学生に対するPRという面からも、このような活動を引き継げると良い。 ○ 鶴田高校では、ALTや国際交流員と行う1泊2日英語合宿や、英語のスピーチ等を実施するEnglish dayの取組を行っており、統合校に引き継いでもらいたい。米国フットリバー市と鶴田町との交流で培われてきた信頼関係に基づく協力を得て、海外研修旅行において毎年ホームステイを実施できており、これまで築いた関係性は引き継いで良い財産である。また、鶴高の恩返しプロジェクトのように、各地域における名所や特産品をアピールできるような活動を統合校でも取り組んでいけると良い。 ○ 五所川原工業高校における工業教育は、統合校に設置される機械科、電子機械科、電気科において、引き続き取り組んでいくものと考えられる。また、各学科共通の資格等については、普通科生徒による取得も視野に入れられると考えられる。五所川原工業高校と協定を交わしている東北職業能力開発大学校青森校との連携を深めていくことが生徒のキャリア形成のプラスになると考えられる。異校種交流学习、体験入学、学校公開、地域イベントやボランティア活動への参加は、統合校に引き継いでいければ良い。 ○ 各校では地元の祭りに参加している。このような地域への貢献についても考慮してもらえると良い。 ○ 統合校における工業科と普通科という学科構成を踏まえると、統合後は工業以外の医薬理工系大学との連携も視野に入れるなど、高大連携の可能性が広がると考えられる。 ○ この地域において人口減少問題は地域衰退に直結する大問題である。高校卒業後、地域に根ざし貢献できる人財を育てられるような教育が必要だと考える。金木高校、板柳高校及び鶴田高校では歴史ある教育活動を行っているので、是非活用して地域を盛り上げてほしい。

協議事項	協議結果
	<p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域を担っていく価値のある人財を育成するため、生徒が興味を示し関心を持てるようなカリキュラムを設定してはどうか。例えば普通科の生徒が選択できるように「国際理解」や「国際観光」、「福祉」、「情報」を取り入れてはどうか。 ○ 道徳教育は非常に重要であり、道徳教育に関する時間の設定も検討してほしい。 ○ 今後の人財育成に当たっては、ロータリークラブやライオンズクラブ等の外部団体による国際交流等の活動も活用すべきである。

協議事項	協議結果
<p>普通科と工業科の連携</p>	<div style="border: 3px double black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>統合校において普通科と工業科の連携した取組が活発に行われるよう、委員それぞれの意見を踏まえて、具体的な検討を進めてもらいたい。</p> </div> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 普通科、工業科にかかわらず居住地域によりグループ分けをし、自身の居住地域について理解を深め発信するような取組を1年次の総合的な探究の時間に行ってはどうか。 ○ 資格取得や進学講習等における連携が考えられる。 ○ 総合的な探究の時間若しくは文化祭等の学校行事の際、例えば、工業科の生徒がアクセサリーを製作し、それを普通科の生徒がパッケージデザインや販売等のマーケティングを行ったり、インターネットを通して情報発信したりするような連携ができないか。 ○ 統合校では、普通科の生徒が商業に関する資格取得を目指すだけでなく、工業科の科目も選択できるような教育課程を編成してはどうか。 ○ 各地域の活動に普通科と工業科の生徒が手を取り合って取り組むことで、普通科の生徒だけではできない工業科の生徒によるものづくり等を含めた地域貢献が可能になるのではないか。 ○ 普通科における探究型学習への取組であるが、工業科の課題研究をベースにしつつ、伝統文化の継承、国際交流、地域課題の解決等をテーマにした探究型学習のプログラムを開発する必要がある。 ○ これからの時代を生き抜いていける人財を育むということを念頭に、文理類型にこだわらない科目履修ができるカリキュラムの編成は理想的である。

協議事項	協議結果
	<p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 工業科と普通科の連携によるメリットを最大限に生かした教育活動については、単に科学技術やIT技術に長けた人財を育てるという視点でなく、しっかりとした学力を身に付けさせ、広く深い思考ができる人財を育成するという視点が重要である。 ○ 普通科と工業科との間で連携しながら、双方の学科において専門的な学習に取り組めると良い。

協議事項	協議結果
<p>部活動</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">部活動の設置数が多い五所川原工業高校を基本としつつ、女子生徒の活動の場の確保や生徒のニーズも踏まえながら、統合対象校で行われてきた特色ある部活動を生かしていくという観点で検討を進めてもらいたい。</p> </div> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 五所川原工業高校に設置されている部活動が基本となることは理解できる。ただし、普通科が設置されることで、現在の五所川原工業高校よりも女子生徒が増えることが予想されるため、女子生徒の活動の場を是非検討してほしい。 ○ 現在、金木高校の三味線部員は少ないが、統合校において生徒のニーズがあれば三味線部の設置も検討してほしい。 ○ 統合校が開校する令和3年度と令和4年度の2年間は、五所川原工業高校の生徒と統合校の生徒が1つの校舎に共存することを踏まえながら、部活動の在り方等を検討していく必要があり、検討課題として開設準備室に引き継いでいくことになる。 ○ 部活動については、生徒の関心が高い部分である。したがって統合の対象となる4校の生徒からアンケートを取るのも1つの方法ではないか。また、指導者の確保も十分検討する必要があるのではないか。 ○ 各校の運動部や文化部には多くの歴史や実績がある。統合後も残せる部活動は継続し、生徒たちの活躍の場を広めていけば良い。

協議事項	協議結果
統合対象校間の連携	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">統合前であっても4校の生徒が文化祭等を通して交流するほか、教育課程編成に向けた課題の整理等の統合準備が円滑に進むよう、必要に応じて4校の教員によるワーキンググループを設置するなど、連携を深めてもらいたい。</p> </div> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 統合対象校の募集停止により、今後、在籍生徒が更に減少していくため、統合対象校間における合同チームの編成等の連携が必要になってくる。部活動における合同チームの編成は早急に検討すべき課題である。 ○ 各統合対象校間で生徒が交流し互いの学校を理解したり、自身の学校を紹介したりする場があっても良い。ただし、自校の教育活動で忙しいことや在籍生徒が減少していくことを踏まえ、無理のない範囲で活動できると良い。具体的には、統合対象校の文化祭を各校の生徒が見学し、互いの学校を紹介し理解するような活動ができると良い。 ○ 統合対象校が閉校となるまでの期間は限られているものの、今後、統合校の開校という観点だけではなく、統合対象校の閉校もイメージしながら、協議していく必要がある。 ○ 必要に応じて、教育課程の検討等について、その都度ワーキンググループを立ち上げるなどして詳細に検討していかなければならない。 ○ 統合する4校には、各校色々な引き継ぎたい特色があるので、可能な限り継続していければ良い。開設準備委員会以外に、4校のみでの会議なども必要なのではないか。 ○ 生徒・教員の移動について、時間の確保と予算的な支援も求められる。 ○ 統合校同士、今からでも一緒に活動する機会があっても良いのではないか。

協議事項	協議結果
統合対象校の記念物品の展示	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">統合対象校が所在する各市町における展示を視野に入れつつ、展示内容等について、更に検討を進めてもらいたい。</p> </div> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 五所川原工業高校の校舎は改築されたため、現在、空き教室等はない状態である。統合を見据え普通科の教室棟の改修計画も進んでいるが、統合対象校4校分の記念物品の量を考えると、展示できるような適当な場所が見つからないのが現状であり、更なる検討が必要である。 ○ 各校の記念物品の量はかなり多く、統合校への収納は厳しいものがある。また、同窓生等のことも考えると、例えば記念物品の一部を地元施設を間借りして展示するという方法は考えられないか。 ○ 統合対象校の校舎が残るのであれば、その一角を記念物品の展示に使用することもできるだろう。各学校にある記念物品を全て五所川原工業高校の校舎に展示するのは当然無理であり、各学校でも統合校に展示してほしい物品を精査する必要がある。 ○ それぞれの地区で展示できるよう方向性を出してもらいたい(各地区で対応がバラバラにならない方がよい)。 ○ 板柳高校は創立80年余になる歴史のある高校である。記念物品を板柳町に残してこそ、町民にとっても、同窓生にとっても価値がある。高校がなくなり、私たちの宝物まで町外に持ち出されるのは正直寂しく、町民にとっても抵抗があると思う。 展示する場所は決まっていないが、「今後の本校の跡地の活用」とも関連してくると思うので、少しでも早めに方向性を示してほしい。 ○ 金木高校は旧金木町の高校であり、地元である金木地区に記念物品を展示することが優先されるべきだろう。大切なことは金木高校のPTAや同窓生等の思いを聞きながら記念物品の展示について検討を進めることである。 ○ 鶴田町としては、旧水元小学校の校舎を活用した歴史文化伝承館内の教室の半分程度のスペースであれば展示が可能である。ただ、記念物品の量がどのぐらいになるか分からないので、今後協議が必要であると考えている。 ○ 板柳高校卒業生は板柳町に多くいる。卒業生の板柳高校に対する思いは大変熱いものがあり、そのことを考えると板柳高校の記念物品を簡単には廃棄はできないだろう。基本的には記念物品を保存したいと考えているが、展示する施設を確保できるのか、施設を確保できたとして記念物品を収納できるだけのスペースが果たしてあるのか、あるいは展示場所を設けるとすれば、財政的なことを考慮する必要があると考えている。

協議事項	協議結果
統合対象校の事務の引継ぎ	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">統合対象校、統合校及び県教育委員会が連携を図りながら、事務手続を進めてもらいたい。</p> </div> <p>(主な意見)</p> <p>○ 各校では、指導要録を過去20年分保存しており、文書は保存年限に応じて10年以上保存されているものもある。記念物品と併せて、それらの文書が統合校の校舎に搬入されることとなる。金庫を新たに置く場所の確保等が厳しいため、各校の文書量がどの程度になるのか、金庫はいくつ必要になるのかといった点について、文書を実際に移すまでに検討していく必要がある。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【参考：事務の引継方針】</p> <p>1 各種証明書の発行について 金木高校、板柳高校、鶴田高校及び五所川原工業高校の卒業生に対する卒業証明書や成績証明書等の各種証明書の発行については、西北地区統合校がその事務を引き継ぐ。 なお、これまでの例にならい、4校の閉校後、令和5年度（2023年度）から県教育委員会ホームページに4校の卒業生向けのページを作成し、各種証明書の発行等に係る案内を掲載する。</p> <p>2 教育実習生の受入れについて 金木高校、板柳高校、鶴田高校及び五所川原工業高校の教育実習生については、西北地区統合校において受け入れることとする。 なお、教育実習生の希望者が多数となるなど、西北地区統合校での受入れが困難となる場合には、県教育委員会から他の県立高等学校長へ受入れを要請する。</p> <p>3 指導要録等の引継ぎについて 指導要録、沿革に係る資料の保存・管理等については、西北地区統合校が引き継ぐ。 その他物品の移動に関する事などについては、閉校までに統合対象校、西北地区統合校及び県教育委員会において十分情報を共有し対応することとする。</p> </div>

3 各委員からの要望・意見等について（その他）

- 金木地区の活性化のために、閉校後に校舎の扱いをどうするか決めるのではなく、閉校前から議論を進めてほしい。

附 属 資 料

- 1 西北地区統合校開設準備委員会設置要綱
- 2 西北地区統合校開設準備委員会委員名簿
- 3 西北地区統合校開設準備委員会オブザーバー名簿
- 4 西北地区統合校開設準備委員会の協議経過
- 5 西北地区統合校校名案候補意見募集の結果

1 西北地区統合校開設準備委員会設置要綱

(設置)

第1 青森県立金木高等学校、青森県立板柳高等学校、青森県立鶴田高等学校及び青森県立五所川原工業高等学校（以下「関係校」と総称する。）の統合による西北地区統合校（以下「統合校」という。）の開設に必要な準備を進めるため、西北地区統合校開設準備委員会（以下「開設準備委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2 開設準備委員会は、次に掲げる事項について協議、検討し、青森県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）に報告する。

- (1) 統合校の名称、教育活動及び目指す人財像に関する事。
- (2) その他統合校の開設準備に関する事。

(組織)

- 第3 開設準備委員会は、委員及びオブザーバーで組織する。
- 2 委員は、別記1に掲げる者のうちから教育長が委嘱する。
 - 3 オブザーバーは、別記2に掲げる者をもって構成する。
 - 4 オブザーバーは、開設準備委員会の会議に出席し、委員の求めに応じて情報提供するものとする。
 - 5 第5第1項に規定する委員長は、開設準備委員会の会議に必要な資料作成等を行うため、必要に応じて、関係校の教職員で組織する作業部会を設置することができる。

(任期)

第4 委員の任期は、委嘱した日から平成32（2020）年3月31日までとする。

(委員長等)

- 第5 開設準備委員会に委員長及び副委員長を置く。
- 2 委員長及び副委員長は、委員の互選により定める。
 - 3 委員長は、開設準備委員会を主宰する。
 - 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代行する。

(会議)

第6 開設準備委員会の会議は、委員長が招集する。

(庶務)

第7 開設準備委員会の庶務は、青森県教育庁高等学校教育改革推進室及び関係校において処理する。

(その他)

第8 この要綱に定めるもののほか、開設準備委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成31年4月5日から施行する。
- 2 この要綱の施行後最初に開催される開設準備委員会の会議は、第6の規定にかかわらず、教育長が招集する。

別記1

開設準備委員会委員

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1 関係校の校長の職にある者2 関係校のPTA、同窓会、後援会等のうち各校の校長が推薦した者3 五所川原市、板柳町及び鶴田町教育委員会教育長の職にある者4 地域の学校教育関係者として学識経験を有し、教育長が特に必要と認める者 |
|---|

別記2

開設準備委員会オブザーバー

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1 関係校の教頭及び事務長の職にある者2 関係校の教職員で校長が特に必要と認める者 |
|--|

2 西北地区統合校開設準備委員会委員名簿

(敬称略)

所 属 等	委 員 名	備 考
県立金木高等学校 校長	福 原 直 樹	
県立板柳高等学校 校長	平 川 昌 史	
県立鶴田高等学校 校長	隅 田 佳 文	
県立五所川原工業高等学校 校長	幸 山 勉	副委員長
県立金木高等学校後援会 会長	尾 野 勝	
県立板柳高等学校後援会 理事長	成 田 正 義	
県立鶴田高等学校 P T A 会長	藤 田 重 彦	
県立五所川原工業高等学校後援会 理事長	阿 部 広 悦	
五所川原市教育委員会 教育長	長 尾 孝 紀	
板柳町教育委員会 教育長	永 澤 正 己	
鶴田町教育委員会 教育長	中 野 雄 臣	
元県立五所川原高等学校 校長	佐 井 憲 男	委員長

3 西北地区統合校開設準備委員会オブザーバー名簿

(敬称略)

所 属 等	オブザーバー名	備 考
県立金木高等学校 教頭	加 藤 聖 子	
県立金木高等学校 事務長	佐 藤 泉	
県立金木高等学校 教務主任	今 讓	
県立板柳高等学校 教頭	中 畑 要	
県立板柳高等学校 事務長	山 本 美千代	
県立板柳高等学校 教務主任	東 海 賢 治	
県立鶴田高等学校 教頭	川 嶋 幹 二	
県立鶴田高等学校 事務長	外 崎 和 子	
県立鶴田高等学校 教務主任	山 内 拓 雄	
県立五所川原工業高等学校 教頭	津 島 節	
県立五所川原工業高等学校 事務長	橘 壽 雄	
県立五所川原工業高等学校 教務主任	工 藤 和 樹	
県立五所川原工業高等学校 情報技術科主任	成 田 秀 造	

4 西北地区統合校開設準備委員会の協議経過

回	年 月 日	内 容
1	令和元年 5月28日	○目指す人財像について ○学校像について ○校名案の決定方法について
2	令和元年 7月22日	○校名案の方向性について ○特色ある教育活動の方向性について ○普通科と工業科の連携の方向性について ○部活動の方向性について ○統合対象校間の連携の方向性について
3	令和元年10月 8日	○校名案の方向性について ○校訓・校章・校歌・制服の方向性について ○統合対象校の記念物品の展示について ○統合対象校の事務の引継ぎについて
4	令和元年12月23日	○校章・校歌・制服の方向性について ○開設準備委員会報告書（案）について

5 西北地区統合校校名案候補意見募集の結果

○意見募集期間

令和元年 8月 1日（木）から令和元年 8月 30日（金）まで（30日間）

○意見提出者数及び件数

意見提出者数 18人

校名案候補に対する意見 22件

その他校名案候補に関する意見 5件

